

おめでとうございませう
令和五年 秋の叙勲・褒章

黄綬褒章

橘斌さん

(80歳・中村)



橘さんは相馬市出身。18歳で甲冑師(かっちゅうし)になり、甲冑の制作を開始。国内外で学んだ高い技術力によって、相馬野馬追で騎馬武者が身にまとう甲冑の修復を数多く手がけるなど、伝統文化の継承に貢献しました。

(橘さんのひと言)
これからも工房に立ち、後進の育成にも力を注いでいきたいです。

藍綬褒章

森範雄さん

(68歳・初野)



森さんは相馬市出身。昭和54年に市消防団に入団し、民間企業などに勤めながら消防団活動に尽力。平成28年4月1日より消防団副分団長を務めるなど、約44年間にわたり、市の防火・防災に貢献しています。

(森さんのひと言)
受賞できたことを大変うれしく思います。これまで経験したことを伝え、地域を守る消防団員を育てていきたいです。

寄付ありがとうございます
明治安田生命



明治安田生命保険相互会社による寄付は11月21日、市役所で行われ、佐藤力也同社いわき支社長ら4人が訪れました。

同社が取り組む「地元元気プロジェクト」の一環として、地域住民の健康づくりや暮らしの充実に向けた自治体との協働のため、本市に寄付を行うもの。

寄付を受け取った立谷市長は「寄付ありがとうございます。子どもたちの生きる力を育むため大切にに使わせていただきます」と感謝の言葉を述べました。

農地等利用最適化推進施策に関する意見書を提出
市農業委員会

市農業委員会による意見書の提出は11月17日、市役所で行われ、前川正人同委員会会長が立谷市長に「農地等利用最適化推進施策に関する意見書」を手渡しました。

意見書は、農業経営の安定化や農業・農村の維持に対する支援策に関する意見をまとめたもの。

立谷市長は、「相馬産米PR活動など、市独自の取り組みを継続し、全国的な課題は、県と協調しつつ、国に対応を

求めていく」と述べました。



全国大会出場を報告
相馬総合高校吹奏楽部

市芸術文化奨励金交付式は11月14日、市役所で行われ、相馬総合高等学校吹奏楽部の部員らが福地憲司教育長に全国大会出場を報告しました。

同校吹奏楽部は、11月12日に東京都で行われた第29回日本管楽合奏コンテストの高校生S部門で優秀賞およびヤマハ賞を受賞。

福地教育長は、功績をたたえ、奨励金を手渡しました。

災害時の調理方法を学ぶ 磯部小・中学校炊き出し訓練



磯部小学校、磯部中学校合同の炊き出し訓練は11月22日、全児童・生徒41人を対象に磯部中学校で開催されました。同訓練では、児童・生徒らが「一斗缶」を使った野外調理に挑戦し、火加減などに苦勞しながら豚汁や焼き芋などを完成させました。出来上がった食事は、児童・生徒で食べたほか、磯部地区の井戸端長屋入居者に振る舞われました。

ソフトテニス東日本大会での活躍を 願うスポーツ大会出場報告

スポーツ大会出場報告は11月28日、市役所で行われ、東日本大会に出場する松本百花選手（八幡小6年）、松本倫佳選手（八幡小4年）の2人が訪れました。

選手らは、11月5日開催の県二次選考会でそれぞれ優秀な成績を収め、12月2日から開催の東日本大会に出場。

報告を受けた福地憲司教育長は選手らを激励し、奨励金を手渡しました。



全国大会での活躍 願うスポーツ 大会出場報告



スポーツ大会出場報告は11月21日、市役所で行われ、全国大会に出場する青田治子選手、藤澤範子選手の2人が訪れました。

青田選手は日本スポーツウエルネス吹矢協会東北大会実行委員会からの、藤澤選手は県スポーツウエルネス吹矢協会からの推薦を受け、11月28日から東京都で開催の第12回全国スポーツウエルネス吹矢選手権大会に出場。

報告を受けた立谷市長は選手らを激励し、奨励金を手渡しました。

東北大会出場を報告

相馬高校相馬太鼓部

市芸術文化奨励金交付式は12月1日、市役所で行われ、相馬高等学校相馬太鼓部の部員らが福地憲司教育長に東北大会出場を報告しました。

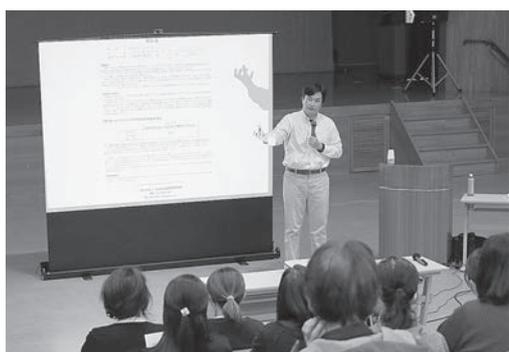
同校相馬太鼓部は、9月24日に開催の県大会で第2位に入賞し、県の代表に選ばれ、11月12日に開催の東北大会に出場し、特別賞を受賞。福地教育長は、功績をたたえ、奨励金を手渡しました。



新型コロナウイルスに対する免疫状態を評価 坪倉正治主任教授報告会

新型コロナウイルス抗体検査報告会は11月21日、総合福祉センター（はまなす館）で開催され、同検査関係者や市民など約80人が参加しました。

当日は、県立医科大学放射線健康管理学講座の主任教授を務める坪倉正治氏より、「新型コロナウイルスに対するワクチン接種後の免疫状態の評価」と題し、継続した検査の有用性や抗体検査の結果などが説明されました。



5年越しの山開き 塩手山登山



塩手山の山開きは11月23日、山上公民館で市内外の登山者ら約130人が参加し、開催されました。

同イベントは、市の観光名所の一つとして塩手山の魅力を市内外に広くPRし、自然に親しんでもらうとともに、登山者による健康増進および地域住民の協力による復興と地域活性化を図ることを目的に開催され、塩手山山開き実行委員会と市観光協会の主催。

同山への経路となる茄子

小田橋の令和5年3月26日の開通に伴い、今年度から一般の方を対象としたイベント開催となりました。

当日は、草野清貴市観光協会会長らのあいさつに続いて、荒一信塩手山山開き実行委員会実行委員長の山開き宣言を皮切りに塩手山に移動し、登山を開始しました。

参加者らは、鮮やかな紅葉の季節にシキザクラが咲く中を歩き、心地よい汗を流しました。

豊かな発想力を
たたえる 県発明
展受賞報告

第69回福島県発明展受賞報告は11月24日、市役所で行われ、星健一さんと石井大翔さん(日立木小)の2人が訪れました。

受賞者らは、11月に郡山市で開催された県発明展に出品。星さんが第1部(一般の部)で特選、石井さんが第2部(小学校、中学校、高等学校の部)で佳作をそれぞれ受賞しました。

受賞者らは作品の特徴や発想のきっかけなどを説明し、報告を受けた立谷市長は受賞をたたえました。

仲間と共に全力で完走

市子ども駅伝競走大会

第11回相馬市子ども駅伝競走大会は11月25日、馬陵通りで行われ、保育園児から一般の部までの30チーム166人が参加しました。

大会は、馬陵通りの市民会館前をスタート・ゴールに、8部門に分かれて行われ、子どもたちは保護者らの声援を受けながら、チームの仲間と共にタスキをゴールまでつなぎました。



社会での女性活躍を考える

女性団体連絡会講演会

市女性団体連絡会事業講演

会は11月23日、総合福祉センター(はまなす館)で開催され、市民ら約50人が参加しました。

当日は、2hours代表の鷲谷恭子さんを講師に迎え、「『女性活躍』の再定義」と題した講演が行われました。

鷲谷さんは、企業勤務や子育てを経て起業した経験を基に、女性が「自分軸」をしっかりと持つことが、より良い社会を形成する女性活躍に結びついていくと述べました。



親子の絆を深める

みんなで子育てワイワイショップ

みんなで子育てワイワイ



ショップは11月26日、総合福祉センター（はまなす館）で開かれ、親子連れら約400人が訪れました。

会場では、ステージでダンスが披露されたほか、手作りフリスビーなどのおもちゃで自由に遊べるコーナーや、ヨーヨー釣りなどが楽しめる「お店屋さんであそぼう」コーナーが設けられました。訪れた親子らは、各コーナーを回り工作やゲームをして楽しい時間を過ごしました。

循環型社会へ向けた取り組みを視察

県知事との意見交換

内堀雅雄知事と立谷市長の現地視察と意見交換は11月27日、そうまIHIグリーンエネルギーセンターで行われました。

内堀知事は、同センターの太陽光発電による電力で水を電気分解し製造した「グリーン水素」と空気中の二酸化炭素を化学反応させた「グリーンメタン」を車両燃料として活用する国内初の取り組みなどの説明を受けた後、立谷市

長と意見を交わしました。



頂点目指し熱戦 相馬松川浦全国 PG選手権大会



第29回JALCUP相馬松川浦全国パークゴルフ選手権大会は11月26日、相馬光陽パークゴルフ場で開催され、市内外のパークゴルフプレーヤー約500人が出場しました。同大会は、相馬市パークゴルフ大会実行委員会の主催で、11月24日～11月26日の3日間開催。

競技は、本丸A・B・C、二の丸A・B、三の丸A・B、大手門A・Bの9コース、81ホールストロークプレーで行われ、参加者が熱戦を繰り広げました。

地元食材を学ぶ

中村第二小学校食育授業

食育授業「地元食材あおさについて」は11月29日、中村第二小学校で行われ、同校5年生児童77人が受講しました。

当日は、株式会社マルリフーズの阿部純也営業部部长を講師に迎え、「松川浦の自然が育てた海の幸あおさについて」と題した授業が行われました。

児童らは、あおさの生産状況や特産品としていくための課題などを学んでいました。



食生活改善推進員と学ぶ

おやこの食育教室

おやこの食育教室は12月3

日、保健センターで行われ、親子6組14人が参加しました。当日は、食生活改善推進員の栄養ミニ講話のほか、食育クイズや調理実習が行われ、「おからといわしのフォンデュハンバーグ」と「おにぎり3きょうだい」を作りました。

参加した親子らは、ハンバーグを好きな形にこねたり、盛り付けの野菜を星型などに型抜きするなど、楽しい時間を過ごしていました。

寄付ありがとう
相馬仏教会

12月5日、林心澄相馬仏教会会長ら3人が市役所を訪れ、立谷市長に寄付金を手渡ししました。

同寄付は、歳末助け合い募金で集められたものと、市内19カ所の寺で構成されている同仏教会の会費から支出されたもの。

寄付を受け取った立谷市長は「ありがとうございます。いただいた寄付金は福祉事業基金として大切に使用させていただきます」と述べました。

相馬の芸能大集合

第37回市芸能大会

第37回市芸能大会は12月3日、総合福祉センター（はまなす館）で開かれ、約500人の市民らが訪れました。

開会式で、荒秀一市文化団体連絡協議会会長は「日ごろの研さんの成果を発揮してください」とあいさつしました。

相馬民謡、日本舞踊、太極拳、バレエなど9団体が日ごろの練習の成果を披露し、訪れた市民らは大きな拍手を送っていました。

みんなで就労を
支援しよう福祉事業所合同
販売会

福祉事業所合同販売会・就労支援相談会は12月5～6日の2日間、市役所で行われ、約200人の市民らが訪れました。販売会には就労継続支援事業所のミッキーズ・ハウス、工房もくもく、スマイルセンター、あさがお、自立研修所ビーンズ、アルファワークス、フュージョン・アグリ、ふくちゃんのほか、県立相馬支援学校などが参加し、訪れた人たちは、同事業所利用者らと交流しながら買い物を楽しんでいました。

松川浦環境公園隣接地の埋め立てに関する
意見書 松川浦ふれあいサポート

NPO法人松川浦ふれあいサポートによる意見書の提出は12月4日、市役所で行われ、同法人の菊地三起郎理事長が立谷市長に「松川浦環境公園隣接地の湿地埋め立てに関する意見書」を手渡しました。

意見書は、同地内で土砂の埋め立てを行う業者から住民への説明不十分などを理由に、進入路設置に係る同業者への行政財産使用許可を控えるべきとの意見をまとめたもの。

立谷市長は、「住民の理解が得られない以上、市として



行政財産使用を許可できない」と述べました。

事業者支援などを要望
相馬商工会議所

12月4日、草野清貴相馬商工会議所会頭ら5人が市役所を訪れ、立谷市長に要望書を手渡しました。

要望は、エネルギーや原材料価格の高騰などによって売上が減少している事業者への支援や市街地のにぎわい創出による地域活性化などを目的とするもの。

要望書を受け取った立谷市長は「中心市街地活性化や観光振興の観点から検討していきたい」と述べました。

